

5.4 他学部および他機関との共同行事

(1) 物質生命化学科

1) オープンキャンパス

小中高校生から一般の市民の方々に対して、学科・研究室を公開するオープンキャンパス行事を行った。具体的には、熊本大学主催の学部・学科紹介と研究室公開(高校生対象:8月10日,参加者:約130名)、“夢科学探検”、“工学部探検”(一般市民対象:10月30日)を実施し、数多くの参加者を得た。“夢科学探検”、“工学部探検”では、様々な演示実験を行って、小学生・幼児から一般の方々までの幅広い層の方々に化学実験を体験していただいた。

2) SSH(スーパーサイエンスハイスクール)協力校としての取組

SSHに指定された熊本県立第二高等学校の協力校として、12月4日に同校2年生の理数科および普通科・30名を対象に体験学習を実施した。「光と色の化学」というテーマで、化学反応による発光現象(化学発光)、および液晶セルを作製し、その電気応答性に関する実験および講義を行い、光の性質や液晶薄型テレビの原理について学んだ。

(2) マテリアル工学科

1) オープンキャンパス

高校生の大学への進学を促すための、学科の紹介を行うオープンキャンパスを8月10日に行った。また小中学生や一般市民の科学への関心と興味を高めるために10月30日に実施された「夢科学探検2010」において演示実験を行い、マテリアル工学の面白や重要性を広める活動を行った。

2) 第二高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)

「高校生のための材料学入門」

実施概要

我々の身の回りは様々な材料で満ちあふれています。特に”金属”は包丁、飲料缶から自動車、タンカーや長大橋のような大型構造物に至るまで、その用途は実に様々です。これは、用途に合わせて材料の強さや硬さを変化させる(制御する)ことができるからです。今回の実習では、このような金属の性質についていろいろな方法で調べます。(1)材料組織の観察手法、(2)材料強度の評価法の基本を学びます。また(3)アルミニウムの溶解と鋳造による製品作りや、(4)いろいろな材料を体験することで、材料学の重要性を知る事を目的と致します。

日時 平成22年12月4日(土)9:00~15:45

場所 自然科学研究科総合実験棟 6階 601教室

参加学生数 20名

対応職員および学生:教員1名(安藤)、技術職員1名(津志田)、TA学生3名

内容

1. [講義] 材料工学の紹介
2. [材料体験] 材料のもついろいろな性質を体験する
3. [材料の作製実習] アルミ合金の鋳造
4. [材料の特性評価体験] 身の回りの道具による銅線の引張試験, 引張試験機による鋼の引張試験

5. [材料の組織観察] 鉄(鋼)の組織の光学顕微鏡観察, 走査型電子顕微鏡(SEM)による破面観察
6. [講義] 大学での材料研究について

3) 進学ガイダンスセミナーin 熊本(高校生の部) 模擬授業の実施

高等教育コンソーシアム熊本および独立行政法人大学入試センターが主催する進学ガイダンスセミナーin 熊本(高校生の部)において自然科学分野の模擬授業を担当し、高校生約40名に対して「高校生からのキャリアデザイン -マテリアル工学教育を通じた自然科学へのアプローチ-」と題した講義を行った。

主催:高等教育コンソーシアム熊本、独立行政法人大学入試センター

企画:熊本県進学願ダンスセミナー実施委員会

開催日:H22年7月4日

開催地:熊本大学

模擬授業名:高校生からのキャリアデザイン -マテリアル工学教育を通じた自然科学へのアプローチ-

担当者:山崎倫昭准教授

4) 先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携の構築に関する国際共同事業

環黄海域国際マグネシウムシンポジウム (YSR4)

H21年度、科学技術振興調整費 アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進として、「国際共同研究の推進:先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携の構築」(代表:高島和希教授)が採択された。このプロジェクトは、中国、韓国、台湾の研究機関と協力し、マグネシウム合金の先進技術開発を基盤として、東アジアにおける研究の国際連携と人材育成を行うものである。その一環として、H22年9月に「6th KITECH-KU Symposium on Advanced Materials」を韓国生産技術研究院と熊本大学の共催にて熊本大学工学部百周年記念館にて開催し、さらにH22年11月に「The 5th Pan-Yellow Sea Rim International Symposium on Magnesium Alloys (YSR-Mg5)」を台北市(台湾)にて開催した。また、台湾東華大学・王建義教授を熊本大学に迎えて国際共同研究をH23年3月に実施した。

5) 「高性能Mg合金創成加工研究会」定期講演会の開催

産学官連携を目指して平成15年6月に発足した「高性能Mg合金創成加工研究会」を、熊本大学工学部マテリアル工学科、機械システム工学科、物質生命化学科、および衝撃・極限環境研究センターの教員からなる拠点形成研究B「環境軽負荷を目指した次世代マグネシウム合金の創製加工」の協力を得て運営を継続し、平成22年度は4回の定期講演会を様々な分野から講師を招き行なった。本研究会は、高性能Mg合金の創成とその有効利用法を創出するために、最先端の研究動向調査を行うとともに、高強度高靱性材料の開発とその加工利用法の開発について相互に情報交換・研鑽を重ねて、熊本および九州地区をわが国におけるMgものづくりセンターへ発展させることを目的としているが、国内の産学官連携のみならず、環黄海域国際交流・連携も推進している。H22年度の研究会活動を以下に示す。毎回、企業、大学、公的研究機関、協会・組合、行政関係などから60名程度、年間総計250名以上の参加者を集めている。

第36回高性能Mg合金創成加工研究会講演会

「マグネシウム合金の輸送機器への応用と産学官連携」

開催日:2010年8月9日(月)

会場:熊本大学工学部2号館211教室

講演会プログラム:

「実用 Mg 合金の材料特性とその他実用構造材料との比較」 日本金属株式会社 佐藤雅彦氏
「輸送機器における Mg 合金応用の最新動向」 森村商事株式会社 金属事業部 虫明守行氏
「Mg 合金による自動車部品の軽量化」 日産自動車株式会社 材料技術部 桜井寛氏
「Mg 合金事業化例と産技センターの支援の在り方」 茨城県工業技術センター 行武栄太郎氏
「電磁振動プロセスによる高機能金属材料の創製技術の開発」 三輪 謙治、産業技術総合研究所
「KUMADAI マグネシウム合金の産学官連携」 熊本大学 大学院自然科学研究科 河村能人氏

第 37 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

6th KU-KITECH Symposium on Bulk Metallic Glasses and Advanced Materials

開催日：2010 年 9 月 14-15 日（火、水）

会 場：熊本大学工学部百周年記念館

共 催：科学技術振興調整費 アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進「国際共同研究の推進」「先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携の構築」、高性能 Mg 合金創成加工研究会、国立大学法人熊本大学、韓国生産技術院

講演会プログラム：省略

第 38 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

「腐食環境下におけるマグネシウム合金の諸特性」

開催日：2010 年 12 月 8 日（水）

会 場：熊本大学黒髪南キャンパス，工学部研究棟 I，2 階 203 教室

主 催：科学技術振興調整費 アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進「国際共同研究の推進」「先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携の構築」、高性能 Mg 合金創成加工研究会

講演会プログラム：

「腐食環境下におけるマグネシウム合金の脆化挙動」 関西大学 准教授 春名 匠氏

「AZ および AM 系マグネシウム合金の応力腐食割れ」 高知工業高等専門学校 准教授 奥村 勇人氏

「マグネシウム合金の表面処理技術開発動向」 (株)野毛電気工業 福田 晴人氏

「マグネシウム合金表面処理材の耐食性」 (株)オジックテクノロジース 木戸 満輝氏

第 39 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

第 84 回軽金属学会九州支部例会

「マグネシウムの組織制御」

開催日：2011 年 2 月 7 日(月), 13:30 - 17:00

会 場：熊本大学黒髪南キャンパス 共用棟黒髪 I 1 階情報電気電子講義室

主 催：高性能 Mg 合金創成加工研究会

共 催：(社)軽金属学会九州支部

講演会プログラム：

「Interrogation of Texture Weakening Mechanisms of Hot-Rolled Mg-RE Alloys」

熊本大学 客員研究員 Jason Hadorn 氏

「AZ 系 Mg 合金の降温多軸鍛造による組織と機械的性質の比較」 電気通信大学 准教授 三浦博己氏

「表層ナノ結晶を有する AZ31 合金の組織と機械的性質」 熊本大学 助教 北原弘基氏

「Mg の複合化と傾斜機能材料化」 名古屋工業大学 教授 渡辺義見氏

「マグネシウム合金における押出集合組織形成機構の数値解析」 熊大大学 助教 眞山 剛氏

(3) 機械システム工学科

1) 「バイオマス・ニッポン in 熊本 エネルギーの地産地消・地域循環を目指して」

九州地域バイオマス関係機関連絡会議、九州バイオマス発見活用協議会、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構九州支部との共同で、11月17日、熊本市国際交流ホールにおいて表記行事を行った。

来場者は200名を数えた。

2) 熊本第二高校スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

日時:平成 21 年 12 月 12 日(土)9:00~16:00

実施場所:工学部研究棟 I および工学部実験棟

参加生徒数:15 名

担当者:佐田富教授、川原准教授、有吉技術職員、TA 2 名

本学科の佐田富教授と川原准教授が考案した流体混合装置は、高圧の液体を供給すれば気体を自動的に吸引し微細化してマイクロバブルを作ることができ、逆に高圧の気体を供給すれば液体を自動的に吸引し微細化してミスト(細霧)を作ることができる。その作動原理をエネルギーの保存式を用いて説明すると共に、発生したマイクロバブルやミストの産業上の応用性を確認するために行った水への気体の溶解や気化冷却等の実験を紹介した。その後、多流体混合装置の製作体験を行い、実際にマイクロバブルやミストを発生する実験を行った。

(4) 社会環境工学科

・熊本県立第二高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

日時:平成 22 年 12 月 4 日(土), 9:00~16:00

実施場所:土質実験室, 講義室 (2 号館 224 教室)

参加学生数:4 名

担当教員:大津教授, 椋木准教授, TA4 名

上記日時に、熊本県立第二高等学校から 4 名の 2 年生学生が社会環境工学科を訪れ、下記二示す二つのトピックについて講義と演習が実施された。

1. 「大雨が降るとなぜ土砂災害が起きるのか? 土中内における水の毛管作用の秘密に迫る」

本トピックは、椋木先生と TA2 名が担当し、土質実験室にて講義と演習を実施した。

“土の粉” に異なる量の水を加えた実験用土柱を用意し、強度を定量測定した。土が水を加えることで固まり強度がでるとはどういうことかを学んでもらった。続いての演習では、液状化を再現できるような箱庭を用意し、箱庭に横振動を与えることで、液状化の模倣した。地面(砂)の上のビルの模型が沈んでいく状況、一方で、砂に埋まっていた物体が浮き上がってくる状況が再現され、参加学生は興味深くその様子を観察していた。

2. 「地震の発生機構を微小破壊から知ろう」

本トピックは、大津先生と TA が担当した。

はじめに大津先生より、社会環境工学や土木工学の大切さ、面白さとは何か? についての講義がなされた。次に、地震とアコーティックエミッション (AE) に関する話に関連して、バネ振動を例に波動方程式の導出とその解法が高校生にも分かりやすく解説された。最後に、AE の実習として、紙や発泡スチロールなどが破壊されたときの AE を実測し、スペクトルの比較考察および AE の地震予知への応用可能性などに関する講義がなされた。

1) 第二高校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業の受入実施

熊本市の県立第二高校の 34 名の生徒を迎えて実施した。高校生には、熊大教員が建築学や建築学科の紹介をし、建築の構造やデザインについて30分ずつ講義を行なった上で、グループ毎に課題「ペットボトル・タワー」に取り組みさせた。これは、講義内容を踏まえた上で生徒たちが設計し、具体的なモノをつくる演習で、具体的には、竹ヒゴ、模型用細木材、ゴムバンド、糸などを用いて、1.5リットルの水が入ったペットボトルを支えるタワーを作るというものである。作品が出来上がった後には全員で好評会を行なった。

- ・ 日時: 2010年12月4日(土)
- ・ 参加者: 県立第二高等学校2年生34名
- ・ 場所: 熊本大学工学部(1号館)
- ・ 担当: 伊東龍一教授、山成實准教授
- ・ テーマ 『架構と空間を作る』
- ・ 内容
 - 9:00～9:30 建築学・建築学科の紹介 (伊東)
 - 9:30～9:45 課題「ペットボトル・タワー」の説明(山成)
 - (休憩)
 - 10:00～10:30 建築構造について (山成)
 - 10:30～11:00 建築デザインの方法 (伊東)
 - 11:00～12:00 課題「ペットボトル・タワー」
各チームでスタディ(検討・試作等)
 - (昼食)
 - 13:00～15:00 各チームで制作
 - 15:00～15:30 講評会

(5) 建築学科

1) 第二高校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業の受入実施

熊本市の県立第二高校の 34 名の生徒を迎えて実施した。高校生には、熊大教員が建築学や建築学科の紹介をし、建築の構造やデザインについて30分ずつ講義を行なった上で、グループ毎に課題「ペットボトル・タワー」に取り組みさせた。これは、講義内容を踏まえた上で生徒たちが設計し、具体的なモノをつくる演習で、具体的には、竹ヒゴ、模型用細木材、ゴムバンド、糸などを用いて、1.5リットルの水が入ったペットボトルを支えるタワーを作るというものである。作品が出来上がった後には全員で好評会を行なった。

- ・ 日時: 2010年12月4日(土)
- ・ 参加者: 県立第二高等学校2年生34名
- ・ 場所: 熊本大学工学部(1号館)
- ・ 担当: 伊東龍一教授、山成實准教授
- ・ テーマ 『架構と空間を作る』
- ・ 内容
 - 9:00～9:30 建築学・建築学科の紹介 (伊東)
 - 9:30～9:45 課題「ペットボトル・タワー」の説明(山成)
 - (休憩)
 - 10:00～10:30 建築構造について (山成)
 - 10:30～11:00 建築デザインの方法 (伊東)

11:00～12:00 課題「ペットボトル・タワー」
各チームでスタディ(検討・試作等)

(昼食)

13:00～15:00 各チームで制作

15:00～15:30 講評会

(6) 情報電気電子工学科

1) 熊本県立大津高等学校 SPP (サイエンスパートナーシッププロジェクト)

- ・ 日時:2010年7月24日(土)、7月28日(水)、7月31日(土)
- ・ 場所:大津高等学校物理教室、熊本大学(黒髪)総合研究棟多目的会議室
- ・ 内容:電子部品・ラジオ・アンテナ・太陽電池に関する原理の学習及び製作・測定実習
- ・ 参加生徒数:熊本県立大津高等学校 理数科1年 40名
- ・ 担当者:松島 章、周山大慶

2) 熊本県立熊本第二高等学校 SSH (スーパーサイエンスハイスクール)

- ・ 日時:2010年12月4日(土) 9:00～16:00
- ・ 場所:熊本大学(黒髪)総合研究棟多目的会議室
- ・ 講座名:電気電子エネルギー技術の基礎と先端研究
- ・ 参加生徒数:18名
- ・ 担当者:中村有水、勝木 淳、藤吉孝則、宮内 肇

3) 第11回半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム

- ・ 日時:2010年9月24日
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:工学部百周年記念館
- ・ テーマ:「世界を動かすパワー半導体」
- ・ 参加者数:150
- ・ 担当者:久保田 弘

4) 公開セミナー

- ・ 日時:平成22年9月25日(土)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学インキュベーション施設多目的講義室
- ・ テーマ:「パワーデバイスセミナー」
- ・ 参加者数:30
- ・ 担当者:久保田 弘

5) 公開特別講義

- ・ 日時：平成22年10月16日
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：工学部百周年記念館
- ・ テーマ：光デバイス特論 東京大学教授 小宮山 進
- ・ 参加者数：30
- ・ 担当者：久保田 弘

6) 出張講義招待講演

- ・ 日時：平成22年10月28日(木)
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：長崎県立長崎北陽台高等学校
- ・ テーマ：「エレクトロニクスの世界～目に見えない電子が社会を持続的に発展させる」
- ・ 参加者数：50
- ・ 担当者：久保田 弘

7) 異分野融合型イノベーション推進人材育成事業第1回シンポジウム

- ・ 日時：平成22年11月4日(木)
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター、HUREC
- ・ 場所：工学部百周年記念館
- ・ テーマ：「産学連携によるイノベーション推進人材育成への期待」
- ・ 参加者数：150
- ・ 担当者：久保田 弘

8) 出張講義招待講演

- ・ 日時：平成22年11月6日(土)
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：福岡県立三池高等学校
- ・ テーマ：「エレクトロニクスの世界～目に見えない電子が社会を持続的に発展させる」
- ・ 参加者数：50
- ・ 担当者：久保田 弘

9) 出張講義招待講演

- ・ 日時：平成22年11月12日(金)
- ・ 主催：超兆集積拠点研究、さわやか大学大学院
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：熊本県福祉センター

- ・ テーマ：「エレクトロニクスの世界～目に見えない電子が社会を持続的に発展させる」
- ・ 参加者数：250
- ・ 担当者：久保田 弘

10) 第12回 NaPFA 半導体量産地域イノベーションのための 熊本大学シンポジウム (I)

- ・ 日時：2011年1月27日
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：工学部百周年記念館
- ・ テーマ：・半導体製造工場におけるエネルギー利用と省エネルギー
- ・ 参加者数：100
- ・ 担当者：久保田 弘

11) 第12回 NaPFA 半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム (II)

- ・ 日時：2011年1月27日
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：工学部百周年記念館
- ・ テーマ：「自動車用途で拡大・加速する高信頼性半導体デバイス」
- ・ 参加者数：150名
- ・ 担当者：久保田 弘

12) 第12回 NaPFA 半導体量産地域イノベーションのための 熊本大学シンポジウム【公開セミナー】

- ・ 日時：2011年1月29日(土)
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：インキュベーション施設1階多目的講義室
- ・ テーマ：高信頼性半導体デバイスセミナー
- ・ 参加者数：30名
- ・ 担当者：久保田 弘

13) 革新研究加速化プラットフォーム研究コアキックオフ・シンポジウム

- ・ 日時：平成23年3月14日(月)13:00~16:00
- ・ 主催：超兆集積拠点研究
- ・ 共催：(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所：工学部百周年記念館
- ・ テーマ：「NaPFA スケール量産のための最先端製造科学研究コア」
- ・ 参加者数：80名
- ・ 担当者：久保田 弘

(7) 数理工学科

1) SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 協力校としての受入

SSH に指定された熊本県立第二高等学校の協力校として、12月4日に同校2年生の理数科および普通科・6名を対象に体験学習を実施した。学習テーマは2つで、1つは内藤幸一郎教授による「フラクタル数学の基礎」というテーマで、自己相似性やフラクタル次元など、フラクタル幾何学の基本的な概念について紹介し、対話式幾何学ソフトウェア KSEG を用いてフラクタル図形の描画実習を行った。もう1つは、岩佐学准教授による「標本調査入門」というテーマで、標本調査法および統計的推測法の基本的な知識について、コンピュータによる演習を交えながら紹介し、世論調査や視聴率調査など身近な事例を取り上げながら解説を行った。主な反響としては、「数理工学科に興味を持てた」、「難しかったけれど楽しく受講することができた」、「大学の内容を先取りした気がして嬉しかった」などの意見があった。

2) 熊本確率論セミナー

実施日時: 2010年11月9日

開催場所: 熊本大学工学部数理工学科 数理工学科棟2階(会議室)

講師: 川上 裕 氏(九州大学)

題目: ガウス写像のリュービル性と曲面のベルンシュタイン型定理との関係について

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

3) 熊大群論セミナー (理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年9月29日

開催場所: 熊本大学大学院自然科学研究科研究棟数理演習室 301 室

講師: 神保 雅一 氏(名古屋大学大学院情報科学研究科)

題目: 量子ジャンプ符号と組合せデザイン

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

4) 第75回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年5月15日

開催場所: 熊本大学大学院自然科学研究科研究棟数理演習室 301 室

講師: 岸本 展 氏(京都大学大学院理学研究科PD)

題目「非線形Schrödinger方程式の適切性とFourier制限法」

講師: 池島 良 氏(広島大学大学院教育学研究科)

題目「空間遠方で臨界減衰する摩擦項をもつ線型波動方程式のエネルギーの基礎的減衰評価」

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

5) 第76回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年6月19日

開催場所: 熊本大学大学院自然科学研究科研究棟数理演習室301室

講師: 金 大弘 氏(熊本大学・大学院自然科学研究科)

題目「On some limit theorems for multi-dimensional diffusion processes of Brox's type」

講師: 高津 飛鳥 氏(東北大学・大学院理学研究科・D3)

題目「Displacement convexity of generalized entropies」

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

6) 第77回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年7月17日

講師: 長澤 壯之 氏 (埼玉大学・大学院理工学研究科)

題目「 Helfrich流に対するGramian評価について 」

講師: 立川 篤 氏 (東京理科大学・理工学部)

題目「 フィンズラー多様体への調和写像の正則性について 」

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

7) 第78回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年9月11日

講師: 赤木 剛朗 氏 (芝浦工業大学・システム理工学部)

題目「 fast diffusion方程式の解の漸近形について 」

講師: 小川 卓克 氏 (東北大学・大学院理学研究科)

題目「一般化された最大正則性原理とその発展方程式への応用」

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

8) 第79回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年10月2日

講師: 和田 健志 氏 (熊本大学・大学院自然科学研究科)

題目「電磁ポテンシャルを含むSchrödinger 方程式の平滑化効果とMaxwell-Schrödinger 方程式への応用 」

講師: 渡辺 達也 氏 (京都産業大学・理学部)

題目「 Asymptotic behavior of ground states of quasilinear Schrödinger equations 」

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

9) 第80回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2010年11月6日

講師: 桑田 和正 氏 (お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科)

題目「 Heat flow on Alexandrov spaces 」

講師: Slawomir Rybicki 氏 (Nicolaus Copernicus Univ., Poland)

題目「 Bifurcations of solutions of elliptic differential equations 」

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

10) 第81回熊本大学応用解析セミナー(理学部・教育学部との共催)

実施日時: 2011年2月19日(土) 10:00より

講師: 小林 孝行 氏 (佐賀大学・大学院工学系研究科)

題目「 Weighted L^p estimates of the solutions to the Navier-Stokes equations 」

講師：塩路 直樹 氏（横浜国立大学大学院・環境情報研究院）

題目「 Brezis-Nirenberg問題の解の多重性について 」

講師：李 春花 氏（大阪大学大学院・理学研究科）

題目「 On a system of two-dimensional nonlinear Schrödinger equations 」

講師：柴田 徹太郎 氏（広島大学・大学院工学研究院）

題目「 Inverse and direct bifurcation problems for nonlinear Sturm-Liouville problems 」

講師：小川 卓克 氏（東北大学・大学院理学研究科）

題目「 移流拡散方程式について 」

講師：内藤 幸一郎 氏（熊本大学・大学院自然科学研究科）

題目「 p -進解析へのいざない 」

対象者：研究者・大学院生

参加人数：10名